

特別読み切り

食育 Essay 53

食から元気なからだと豊かな心を

それぞれの思い出や
その時の食事風景が見える
毎日の食事を支える食器



「えんちょうせんせ〜はい、どうぞ！」と小さな手の上ののっていた柿の葉っぱ。その上にはどんぐりや、まつぼっくり、小さな赤い実ののっています。

秋の園庭はごちそうの庭。砂場遊びに夢中になる子どもたちの周りには、庭のあちこちから拾ってきた葉っぱや実が大事におかれ、まるで子どもたちの台所のように。砂いっぱいバケツをひっくり返しケーキに見立て、いちごのように赤い実をのせパーティーを楽しむ子どもたち、その隣ではバーベキューごっこをしている子どもたちと台所はにぎやかです。

食事に欠かすことのできない食器。食器戸棚を見ると、その時、その時代に気に入って購入した食器が並び、その時

の食事風景が見えてきます。

学生時代、パスタ料理に凝った時にはパスタが映えるように白くて少し大きめのお皿ばかりを使っていたり、こう見えても赤が大好きなジュンコ先生のコーヒーカップは赤だったり、九州を旅した時に訪れた唐津焼の窯元で購入した土のぬくもりを感じる真四角の素朴な黒いお皿は、今は父の刺身皿として毎晩食卓に登場するなど、それぞれの食器にそれぞれの思い出があって、毎日の食事を支えています。最近では80代の父母の食事の量が減ってきたことから、肉魚料理と添え野菜、そして箸休め的な酢の物をちょっとのせるだけの大きさ、直径15センチのお皿が重宝で、食器の大きさも家族の食の変遷のような気がします。

中でも、我が家で一番長く活躍しているお皿はスープ皿。山高帽の男性とハーブを奏でる女性に噴水の絵と、洒落た画風にちょっと大人っぽさを感じるそのお皿は幼い時から好きな食器でした。おそらく50年くらいは我が家の食器戸棚の定位置にあり、カレーライスやシチューなどを盛り付けるお皿として、休日の昼には必ず登場する大事なお皿。小さい頃は数枚あったこのお皿も最後の一枚に。このお皿を使うたびに、このお皿で大きくなったんだなと感じながら大事にしているお皿です。

「葉っぱが赤くなったね〜」という子どもたちのつぶやきに、心を彩りながら充実の季節を迎えました。

栗ご飯に、きのこ炒め、そして八戸の菊。今日も定番の食器に盛り付け、秋をいただいています。食欲の季節到来！ウエルで季節を感じながら、ウエルの皆さんのその技に心躍るジュンコ先生です。

- 書き手 - 千葉幼稚園 園長 岡本 潤子

